

国立 長崎大学

プログラムの名称：学生が自ら育む人間関係力醸成プログラム
 -- 学生の自立的行動を大学と地域が協働して取り組む支援
 プログラム担当者：副学長・教育学部 教授 菅原 正志
 キーワード
 1. 人間関係力 2. やってみゅーでスク 3. 長崎大学応援団
 4. 地域伝統行事 5. 学生顧客主義

1. 大学の概要

長崎大学は、鎖国時代の唯一の国際社会との窓口「長崎」にあり、「長崎に根づく伝統的文化を継承しつつ、豊かな心を育み、地球の平和を支える科学を創造することによって、社会の調和的発展に貢献する」との理念に基づき、高まちな教育研究活動を展開し、数多くの有能な人材を輩出し続けてきた。

本学は、旧制長崎医科大学を母体として形成され、8学部、4研究科、1研究所及び附属病院などで構成される中規模の総合大学として地域社会に貢献しており、特に今般の国立大学法人化を契機として、さらなる教育水準の向上と研究の高度化・個性化を図り、産学官連携を強化・推進することを決意し、一層の地域社会及び国際社会への寄与を目指している。

この世界に不可欠な「知の情報発信拠点」であり続けるために、本学では独自の教育研究企画の立案と実践を推進してきた。また、本学の基本理念の柱である「学生顧客主義」の実践に向けて教育レベルの向上を図っている。

2. 本プログラムの概要

長崎はその昔から、全国から若者が蟻集して勉学に励み、町の人々も彼らを温かく迎えた。すなわち、長崎は町全体が学校であり、若者を育てた。21世紀の今、長崎の人々、長崎県・長崎市、長崎大学が協働して、「学生の人間関係力」を育てる。

長崎には「おくんち」を始め、数多の伝統ある地域行事がある。しかし、その行事は準備期間も含め約6カ月を要し、かつ若年者が不足しているため、地域伝統行事の維持が危ぶまれている。

本プログラムは、「学生顧客主義」の標語の下で、本学学生が地域伝統行事に参加して、その維持に力を尽くしてきた町の人々や豊富な知識と経験を持つ市民からな

る「長崎大学応援団」の指導・連携・協力のもとに、昔の町内の若者頭的な役割を果たせるよう「やってみゅーでスク」を組織して取り組む。

地域の古老、指導者、子供たちと祭りの企画・準備等により、学生の「人間関係力」の醸成と、地域行事の活性化・リニューアルが期待される。

3. 本プログラムの趣旨・目的

(1) 取組に至った背景及び新たな取組の概要

学生の休・退学・留年・不登校の対策が早急に対応すべき学生支援の課題となっている。この対策の一環として行った企業関係者へのアンケートは、リーダーシップ、協調性、積極性等の人間関係力の醸成を求める結果となっている(図1)。これらの事項は、本学に限らず、社会との接触機会の少ない現代の学生に不足しがちな事項であり、これらの欠如が、休・退学・留年・不登校の背景にあると考えられる。

長崎大学及び学生に対する企業アンケート結果

採用にあたり重視する点	コミュニケーション能力 88%
	積極性 79% 協調性 60%
長崎大学に期待すること	優れた人材の輩出 89%
採用活動での長崎大学生の印象 (5段階評価)	
	基礎知識 3.9 積極性 3.9 協調性 3.8
	創造性 3.5 リーダーシップ 3.5 語学力 3.3

人間関係力を求める

図1 企業アンケート

このような観点から、本学では、学生自身が学生支援活動に加わるキャンパスライフ活性化として、次の支援を実施している。

(i) 2005(平成17)年度から学生同士の相談として導入し学習や生活等の相談に応じているピア・サポート制度(写真1)。

事例21 長崎大学

(ii) 1999(平成11)年度より学生の「夢」を毎年募集し、これまで13企画が夢大賞に選定され、よさこい「突風」(写真2)は小学生の指導や地域の各種イベントに参加する等、大学を代表するサークルのひとつとなり、長崎大学受験者に対して知名度が高い。

また、「ランチタイムコンサート」(写真3)は、昼休みの一時のクラシック音楽鑑賞が学生・教職員に好評を得ている。

(iii) 就活サポータークラブによる、学生の就職活動に関する自主的活動を学生より公募し毎年3件選定している。

(iv) 1983(昭和58)年以来、学生委員会は、学生生活調査を10回実施し、自由記述による様々な意見は、学生委員会により検討され特に取組や整備が必要な事項を重点支援項目としてまとめ、実現を図っている。

また、学生の要望とニーズを把握するため、学長と学生が直接話す機会を毎年、学園祭期間中に「学長としゃべり場」と「学長と卒業予定者との懇談会」として設けている。

(v) 競技会、展覧会、公演会、ボランティア活動等で顕著な業績を挙げたと認められる学生又は学生団体に

対し、年2回の学長表彰を行っている(写真4)。

これらの取組を通して学生の人間関係力を醸成するとともに、これらを通して休・退学・留年・不登校の対策も進めてきた。

新たに提案する取組では、学生と大学が協働する学生支援体制に加えて、地域の力を活用した支援体制を構築する。すなわち、大学・地域が協働して学生の自主的活動を支援し、一層のキャンパスライフの活性化を推進する体制を整備し、学生の人間関係力を醸成するとともに、併せて地域の活性化にも寄与する。

申請の取組では、学生が地域伝統行事に参加して、その維持に力を尽くしてきた町の人々の指導・連携・協力のもとに、昔の町内の若者頭的な役割を果たす。地域の古老、指導者、子供たちと祭りの企画・準備、パフォーマンス参加などにより、学生の「人間関係力(コミュニケーション能力、リーダーシップ、協調性、行動力など)」の醸成と、地域行事の活性化・リニューアルが期待される。その為に、豊富な知識と経験を持つ一般市民からなる「長崎大学応援団」を結成するとともに、専任教員、コミュニティー・ライフ・アドバイザーを配置し、総合的支援体制を整える。さらに、



写真1 ピア・サポート制度



写真2 よさこい「突風」



写真3 ランチタイムコンサート



写真4 学長表彰

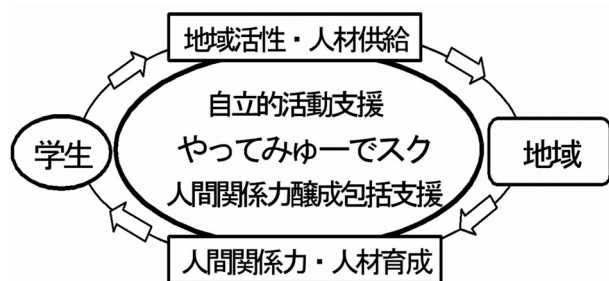


図2 総合的學生支援体制

キャンパスライフ活性化支援のためのワンストップセンターの役割を果たす「やってみゅーでスク」を組織する(図2)。

「やってみゅーで」は、長崎弁で「やってみよう!」の意味である。これにデスクを加えた造語であるが、学生に受け入れられやすいビジョンワードとして採用した。

(2) 長崎大学における取組の意義

従来、本学では、キャンパスライフの活性化の企画・実施に学生自身を参加させることにより、学生の人間関係力を醸成する学生支援の取組を進めてきた。本取組では、さらなる人間関係力醸成のため、「学生参加型・学生企画・提案型の学生の自立的活動」を大学・地域が連携して支援する。そのために、豊富な知識と経験を持つ一般市民などからなる「長崎大学応援団」を結成し、学生とともに伝統のある地域の行事等への参加活動を通して、地域が人間関係力を醸成し、大学が地域に優れた人材を還元する。このような取組は、学生の参加を可能とする多くのイベントが存在する長崎の伝統、全国から遊学する学生を支援してきた長崎の風土、キャンパスライフ活性化の企画・実施に学生を加えた取組を行ってきた本学の取組を基礎に成立するものであり、これらを備えた本学で取り組むに相応しいプログラムである。

4. 本プログラムの独自性(工夫されている内容)

本プログラムでは、学生参加型及び学生企画・提案型の学生の自立的活動支援を通じた、人間関係力醸成の支援を大学・地域が連携して推進する。

「やってみゅーでスク」には上記の学生支援スタッフが所属し、長崎大学の全学生を対象に支援を提供するための行事等への参加を希望する学生はデスクに登録する。「やってみゅーでスク」では、次の2階層の学生

支援を行う。

A. 地域行事参加型及び企画・提案型の学生の自立的活動支援を通じた人間関係力醸成の直接的支援。

B. 「Aの支援」を支えるとともに、学生を「Aの支援」に誘導し、さらには、「Aの支援」の成果を就職活動等の目に見える形の成果として具現化させる間接支援である。これらの支援を有機的に結合させることにより総合的な支援体制を構築する。

本取組では、新たに、地域社会との接点となる専任教員、長崎大学応援団、コミュニティー・ライフ・アドバイザーを配置し、カウンセラー、学生支援部職員とも協力して総合的學生支援を展開する。

専任教員は、「やってみゅーでスク」において地域行事との連携を中心となって進めるとともに、取組全体の統括を行う。郷土史の講義や行事参加のための事前指導も担当する。

長崎大学応援団は、長崎県内の地域行事関係者を任命し参加の学生を側面より支援する担当者(地域行事担当者)及び大学教職員OB、同窓生、団塊の世代や一般市民、学生ピア・サポートより構成する。行事の説明及び事前指導を担当する。

コミュニティー・ライフ・アドバイザー(以下、CLアドバイザー)は、長崎大学応援団の中から希望により、現在、長崎大学心の教育総合支援センターと長崎県教育委員会との連携で養成している、コミュニケーション能力を醸成する「ソーシャル・サポーター」講座を受講願ひ、学生生活全般の指導・助言者として養成し、「CLアドバイザー」の資格を付与する。指導・助言や講演会、各種研修会を担当する。カウンセラーは、通常、「学生何でも相談室」で学生相談に当たるが、「やってみゅーでスク」に登録した学生のハラスメント防止に関するFD研修を実施する。

「Aの支援」は、主に専任教員と長崎大学応援団の地域行事担当者、「Bの支援」は、主にCLアドバイザーが担当するが、それ以外の長崎大学応援団も側面より支援する。

(1) 地域との協働による学生の自立的活動支援

長崎県内のイベントとしては、長崎の「おくんち」、ランタンフェスタ、五島の「アイアンマンレース」、対馬の「アリラン祭」等の規模が大きいものから、町内の小規模の行事まで枚挙にいとまがない。これらの行事は毎年実施され、計画から実施まで長いもので半年間程を要する事や人的支援も必要なことから、学生

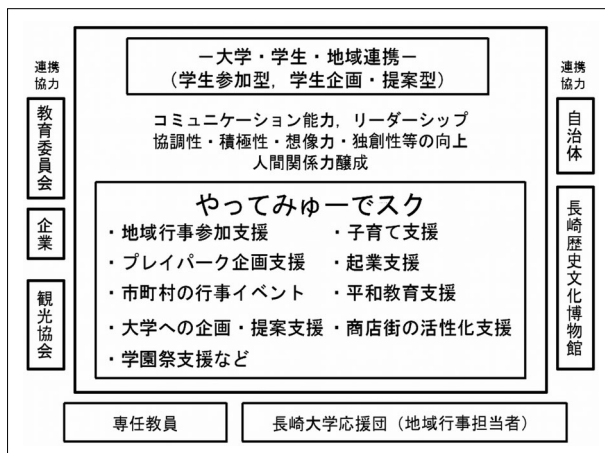


図3 自立的活動支援

が毎年参加できる。すなわち、行事の企画から実施まで学生が自主的に参画し、地域社会と連携・協力しつつ、伝統芸能の伝承と人間関係力の習得を目指す。

地域行事参加型の各行事参加への窓口、学生数の調整等は、地域行事担当者と専任教員が担い、事前学習も地域行事担当者と専任教員によって実施される。

また、子育て支援、プレイパーク企画支援等の企画・提案型については、専任教員と長崎大学応援団が県内各市の教育委員会、自治体、企業等の担当者と連携して学生のニーズに沿って決定し、事前指導を行う。また、学生の起業支援をもプログラムの対象とする。

学生の「やってみゅーでスク」への登録は、個人やサークル等組織で可能である。派遣された学生は、「やってみゅーでスク」記録を定期的に学生支援センターへ提出する義務がある。

(2) 人間関係力醸成を支える包括支援

現在、全学的な相談体制は学生支援センターの「学

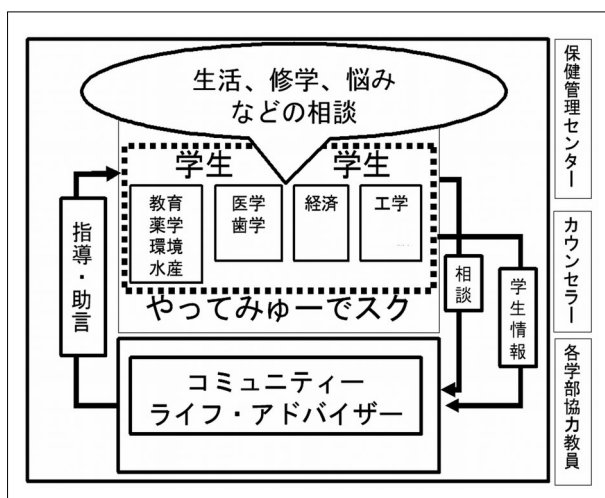


図4 人間関係力醸成包括支援

生何でも相談室」、各部局では正課教育以外にキャリア・アドバイザーなどの制度を設けて学生の修学・生活・就職指導を行っている。しかし、学生数も多く、学力・意欲のレベルは多様であり、これらの学生の悩みの種類・程度ともに多岐にわたっている。

本取組では、地域との協働によりこれらの問題を解決するために、「長崎大学応援団」の設置等を行うことにしている。これらを有効に機能させるには、「Aの取組」に学生を誘導し、さらには、「人間関係力」を目に見える形に具現化する仕組みも必要である。そこで、包括的な支援体制を強化するために、新たに「CLアドバイザー」による支援を行う(図4)。

「CLアドバイザー」の配置に当たっては、8学部を4グループ化し、各グループに「CLアドバイザー」を配置する。その際、必要な学生の基本情報(履修の状況、所属サークルなど)は、指導・助言の際に活用する。「CLアドバイザー」が、欠席や履修状況に応じて早期に面談し、指導・助言を行う他、就職等指導・支援を行い人間関係力醸成を支えるとともに、その成果を具現化する。また、必要に応じて、長崎応援団、企業や地域より講師を招いての研修会を継続的に実施して、知識習得や修学・就業意欲を向上させる。

これらの取組には、学生支援センターの専任教員、各学部協力教員、カウンセラーも連携して協力する。また、必要に応じて、保健管理センターと連携を取る。

5. 本プログラムの有効性(効果)

学生の自立的活動支援の「やってみゅーでスク」では、大学・学生・地域が連携して地域の行事等に積極的に参加することで、大学の座学では学べない知識の習得が可能であり、最近の大学生に求められている「コミュニケーション能力」、「リーダーシップ」、「創造性」など、人と人をつなぐ「人間関係力」が醸成される。この事は、学生のキャンパスライフの活性化に

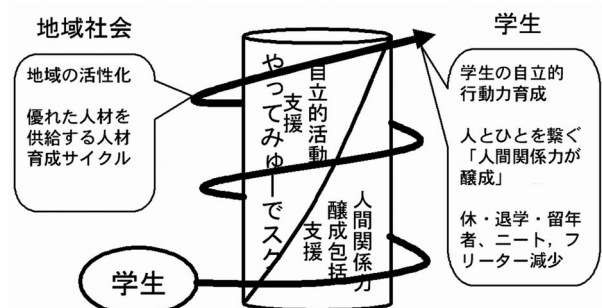


図5 学生支援GPの有効性

より休学者や退学者を減少させるだけでなく、将来、ニート、フリーター及び早期離職者の減少にも貢献できる。すなわち、地域が長崎大学生を育て、長崎大学は地域に優れた人材を供給するサイクル型の人材育成であり、長崎は、その昔、全国より若者が勉学のため集まり、街全体が学問の地であった。この取組は、長崎の人々が暖かく若者を見守っていたように、大学と市民とが協働し、学生の自立的行動を育む伝統的な文化を受け継ぐことに他ならない(図5)。

6. 本プログラムの改善・評価

本取組の改善・評価体制は、学生支援センター運営委員会で実施する。運営委員会委員は、学内各部局より選出された委員、県内観光協会より選出された委員、「長崎大学応援団」より選出された委員で構成し、定期的な評価を行い公表する。評価の観点は、地域活動への参加状況、貢献度や目標達成状況について実施し、高い評価を受けた事項については、一層の向上を促し、低い評価を受けた事項については、適正な改善措置を取る。また、評価結果を改善に効率的に用いるために、FD等を活用したサイクルを確立する。

7. 本プログラムの実施計画・将来性

(1) 取組の全体スケジュール及び各年次の実施計画

(i) 2007(平成19)年度

有期限雇用の特任教員1名(学生の自立的活動支援担当)を公募する。

有期限雇用のカウンセラー1名、コミュニティ・ライフ・アドバイザー6名、長崎大学応援団担当1名を採用し、「やってみゅーでスク」の体制の整備を行う。

長崎県内の教育委員会、長崎歴史文化博物館、自治体、各市や町の観光協会、企業に本事業の説明を行い、連携事業を推進する体制を整備するとともに、学生受け入れの募集開始をする。

大学教職員及びOB、同窓生、団塊の世代や市民、ピア・サポートを募集し、人材バンクの「長崎大学応援団」へ登録を開始する。

「やってみゅーでスク」及び各学部「相談室」の開設・稼働準備をする。

学内教職員に対して本プログラムについての啓発活動を実施するとともに、学生の「やってみゅーでスク」への登録を依頼する。

(ii) 2008(平成20)年度

有期限雇用の特任教員1名(学生の自立的活動支援担当)を採用する。

「やってみゅーでスク」を学生に周知するとともに、登録者を募集する。

「やってみゅーでスク」による地域行事に参加を継続する。

「コミュニティ・ライフ・アドバイザー」による相談体制を確立する。

各学部「相談室」窓口を開設する。

「やってみゅーでスク」の評価・改善を行う。

(iii) 2009(平成21)年度

「やってみゅーでスク」を推進し、学生の登録者を募集する。

「やってみゅーでスク」による地域行事に参加を継続する。

「コミュニティ・ライフ・アドバイザー」による相談体制を強化する。

各学部「相談室」窓口相談を引き続き行う。

「やってみゅーでスク」の評価・改善を行う。

(iv) 2010(平成22)年度

「やってみゅーでスク」を推進し、学生の登録者を募集する。

「やってみゅーでスク」による地域行事に参加を継続する。

「コミュニティ・ライフ・アドバイザー」による相談体制を継続する。

各学部「相談室」窓口相談を引き続き行う。

「やってみゅーでスク」の評価・改善を行う。

4年間の成果を公開シンポジウムによって公表し、他大学の学生支援のモデルとして還元する。

(2) 取組への教職員等の組織

「やってみゅーでスク」の有期限雇用の教員1名、カウンセラー1名、コミュニティ・ライフ・アドバイザー6名、長崎大学応援団担当1名は、本プログラムに全面的に参加する。また、学生支援部、学生支援センター(学生支援課)の職員も、本取組に協力する。

(3) 取組終了後の将来性

長崎大学は「学生顧客主義」を教育・研究の基本理念の柱とし、学長のリーダーシップの下、学生支援センターにおいて全学学生委員会及び全学就職委員会が、

事例21 長崎大学

修学、就職、課外活動、などを含む学生生活の全般にわたって支援を強化する体制を取っており、2007（平成19）年度から4年間の新たな社会的ニーズに対応し

た学生支援プログラムの終了後も、本プログラムに改良を加えつつ継続的に展開する予定である。

選 定 理 由

本取組は、大学の「学生顧客主義」というユニークな基本理念を反映させるものとして、学生の人間関係力の醸成と地域行事の活性化・リニューアルを目指し、市民等から成る「長崎大学応援団」を結成するとともに、大学・学生・地域連携に基づく「やってみゅーでスク」を組織して総合的な学生支援を行おうとするものです。

早くから学生のニーズを把握するとともに、学生支援に関わる教職員の資質能力の向上に組織的に取り組み、また、学生の自主企画を大学として支援し続けています。大学と地域とが協働して学生の自立的活動を支援し、キャンパスライフの一層の活性化を実現しようとする優れた取組であり、その実践は他の大学等にも大いに参考となるものであると認められます。特に、人間関係力醸成の包括支援体制としての「コミュニティー・ライフ・アドバイザー（CLアドバイザー）」の配置構想は特筆できるものです。

今後は、新たな取組に対する効果や有効性を検証しながら、さらなる工夫・改善に努められることを期待します。